

九州の農業産出額及び生産農業所得

令和6年における九州の農業産出額は、米や野菜の価格上昇などの影響により、前年に比べ1,219億円（6.3%）増加し、2兆445億円となり、過去最高を更新した。

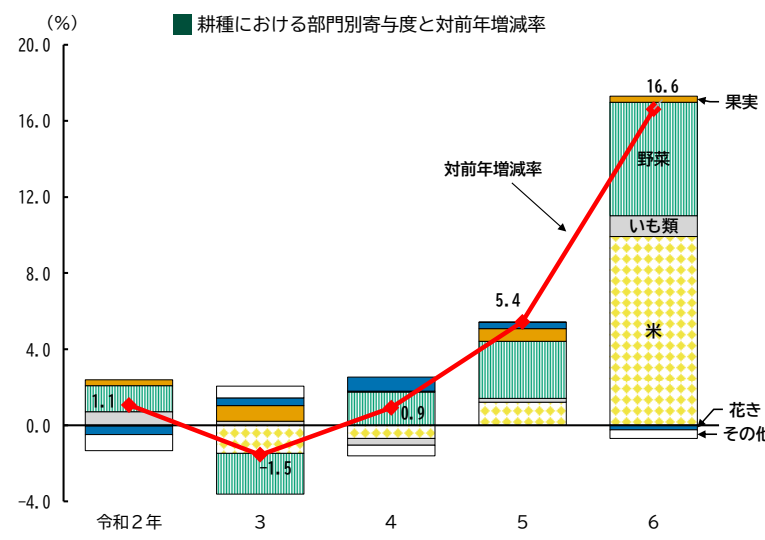
また、令和6年における九州の生産農業所得は、主に農産物価格の上昇などを背景に、前年に比べ653億円（9.4%）増加し、7,605億円となった。

区分	令和2年		3		4		5		6		
	実額	構成割合	実額	構成割合	実額	構成割合	実額	構成割合	実額	構成割合	対前年増減率
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	%
農業産出額	17,422	100.0	17,905	100.0	18,208	100.0	19,226	100.0	20,445	100.0	6.3
耕種計	9,123	52.4	8,982	50.2	9,065	49.8	9,557	49.7	11,144	54.5	16.6
うち 米	1,603	9.2	1,469	8.2	1,408	7.7	1,518	7.9	2,466	12.1	62.5
いも類	597	3.4	616	3.4	583	3.2	602	3.1	707	3.5	17.4
野菜	4,336	24.9	4,141	23.1	4,298	23.6	4,569	23.8	5,139	25.1	12.5
果実	1,273	7.3	1,349	7.5	1,353	7.4	1,413	7.3	1,443	7.1	2.1
花き	563	3.2	600	3.4	667	3.7	698	3.6	675	3.3	△ 3.3
工芸農作物	481	2.8	535	3.0	492	2.7	485	2.5	490	2.4	1.0
畜産計	8,156	46.8	8,751	48.9	8,978	49.3	9,511	49.5	9,139	44.7	△ 3.9
うち 肉用牛	2,839	16.3	3,169	17.7	3,199	17.6	3,072	16.0	3,064	15.0	△ 0.3
乳用牛	801	4.6	804	4.5	771	4.2	781	4.1	814	4.0	4.2
豚	1,941	11.1	2,008	11.2	2,042	11.2	2,147	11.2	2,183	10.7	1.7
鶏	2,526	14.5	2,719	15.2	2,908	16.0	3,462	18.0	3,036	14.8	△ 12.3
うち 鶏卵	654	3.8	746	4.2	750	4.1	1,037	5.4	725	3.5	△ 30.1
ブロイラー	1,739	10.0	1,833	10.2	2,022	11.1	2,282	11.9	2,165	10.6	△ 5.1
加工農産物	144	0.8	172	1.0	166	0.9	158	0.8	162	0.8	2.5
生産農業所得	6,690	-	7,154	-	6,701	-	6,952	-	7,605	-	9.4

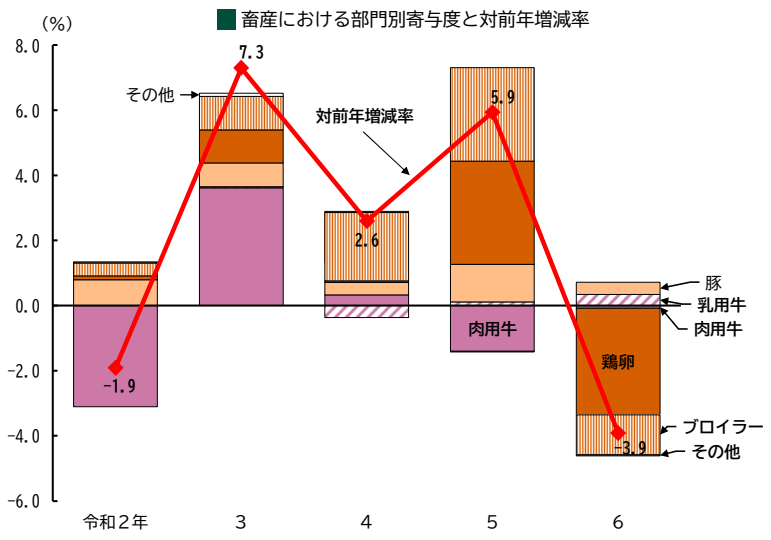
注：表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ）。

主要部門・品目の動向

耕種



畜産

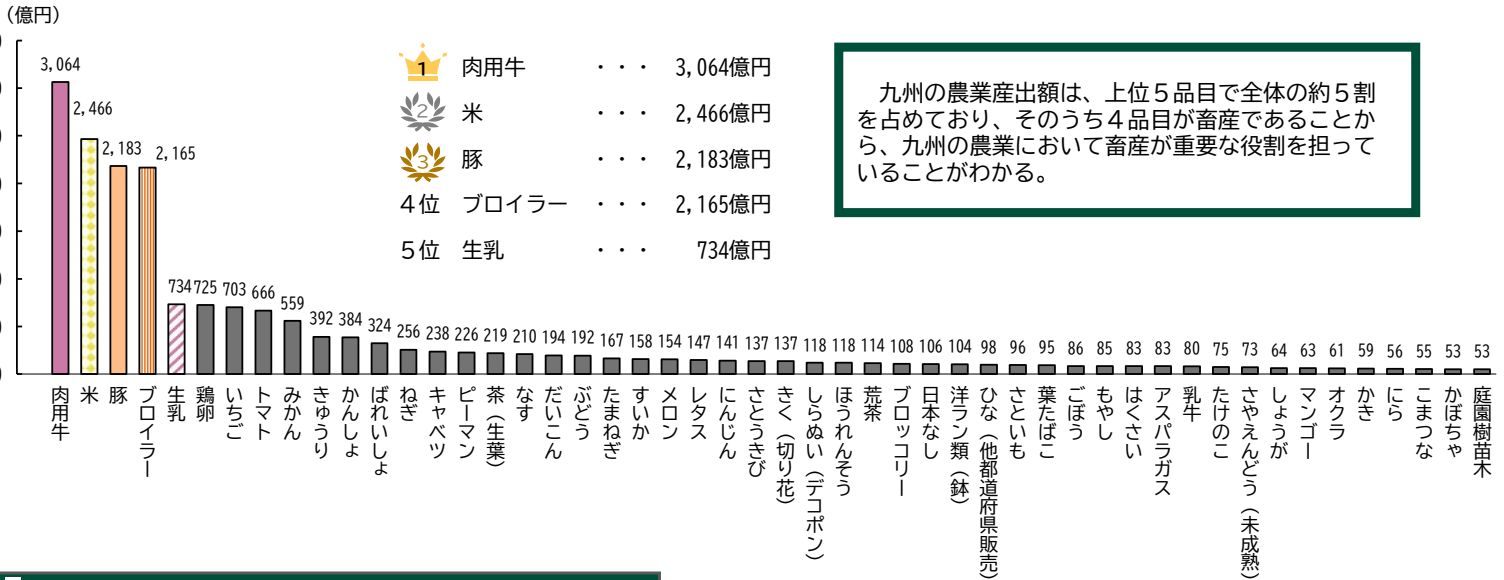


耕種：米については、主食用米の取引価格が上昇したことにより、産出額が増加した。野菜については、天候不順や夏場の高温障害などの影響で生産量が減少した品目が多かったものの、これらの要因による全国的な生産量の減少から市場の品薄感が高まり、価格が上昇したことなどにより、産出額が増加した。

畜産：鶏卵については、令和4年10月以降に発生した鳥インフルエンザの影響により減少していた生産量が回復傾向で推移する中、価格が前年より低下した。また、ブロイラーについても、高値基調で推移していた価格が前年より低下したことなどから、それぞれ産出額が減少した。

令和6年農業産出額における九州内上位品目の紹介

九州内上位50品目



九州内上位50品目のうち、特に全国シェアが高い品目



たけのこ

1位	九州	75億円 (72.1%)
2位	近畿	17億円 (16.3%)
3位	東北	4億円 (3.8%)



しらぬい (デコポン)

1位	九州	118億円 (70.2%)
2位	近畿	20億円 (11.9%)
3位	四国	17億円 (10.1%)



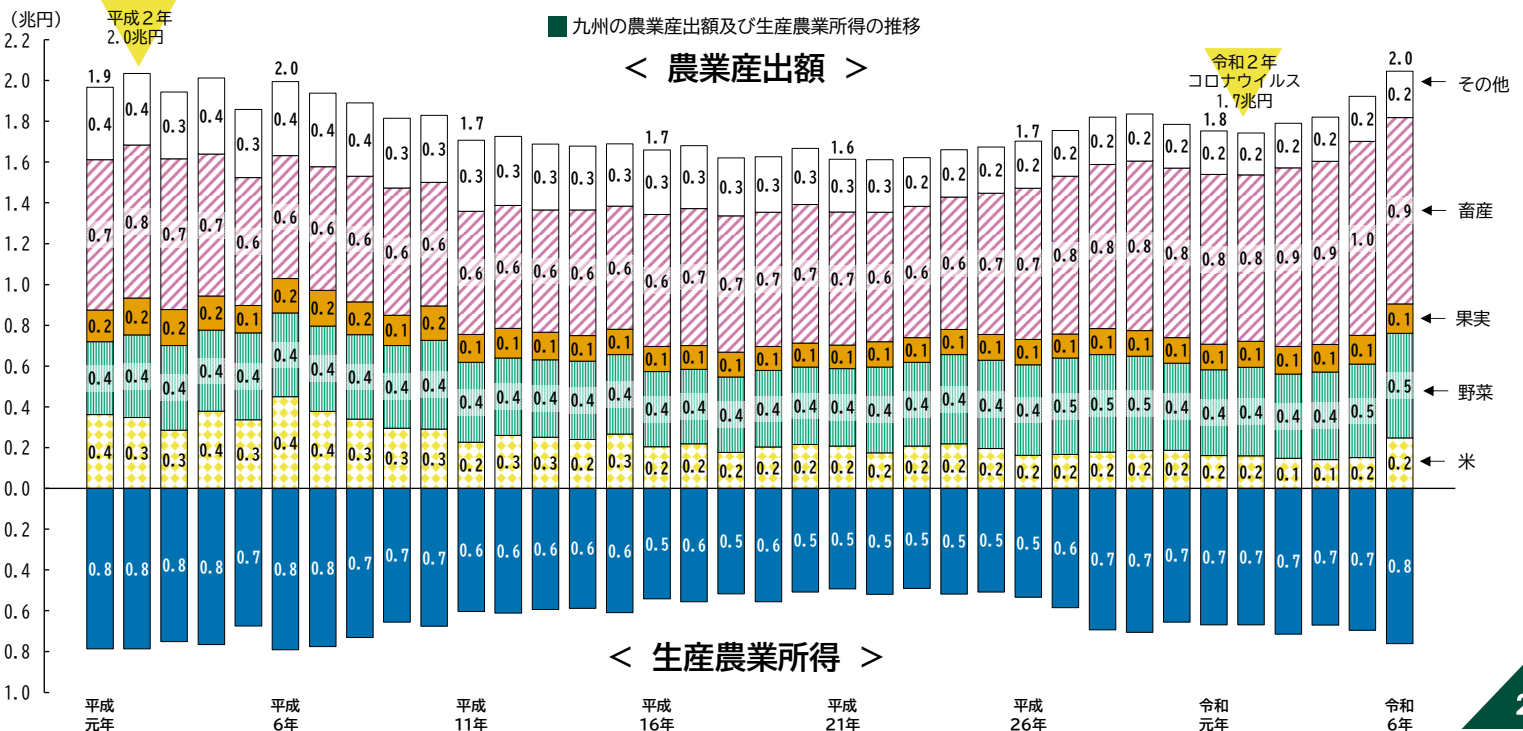
マンゴー

1位	九州	63億円 (69.2%)
2位	沖縄	27億円 (29.7%)

農業産出額及び生産農業所得の推移

九州の累年実績

九州の農業産出額は、平成2年（2兆341億円）をピークに緩やかな減少傾向で推移していたものの、平成23年以降は畜産や野菜を中心に上昇傾向へ転じた。その後、平成30年には再び減少に転じ、令和2年には新型コロナウイルス感染症拡大に伴う需要の変動や価格の低下などの影響を受けたものの、令和3年には畜産の需要が回復し、現在は4年連続の増加となっている。

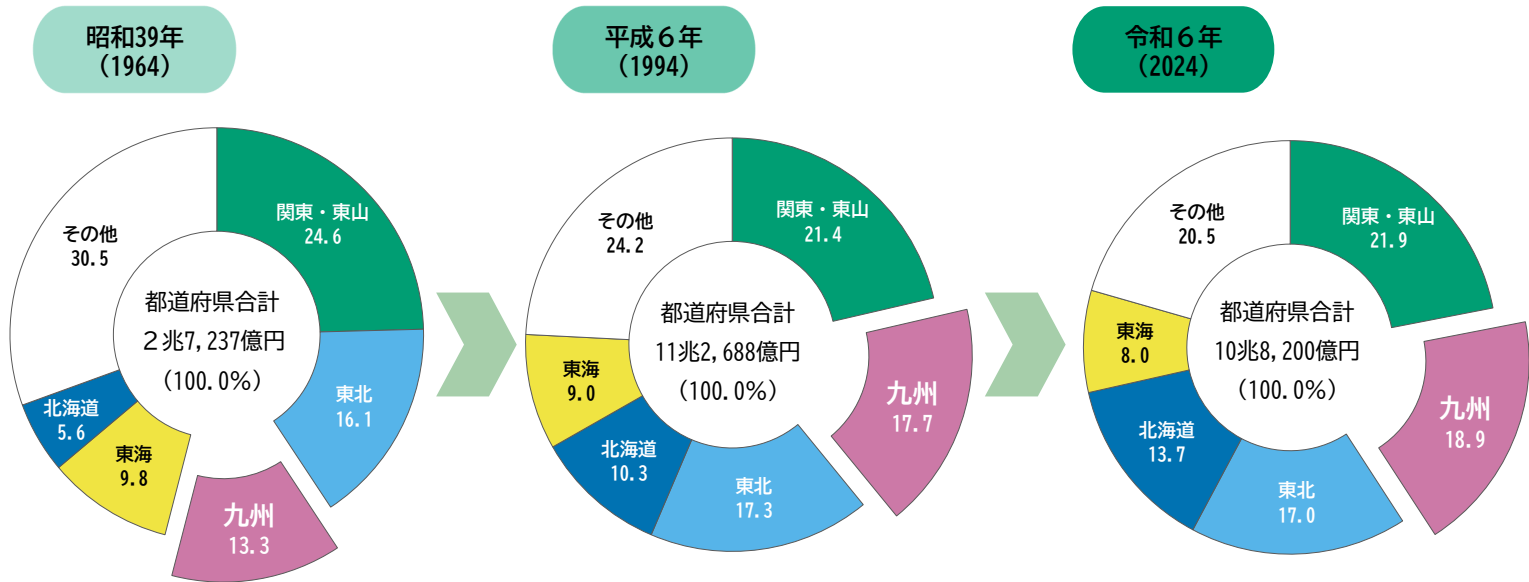


農業地域別の農業産出額の推移

全国の農業産出額に占める九州の割合

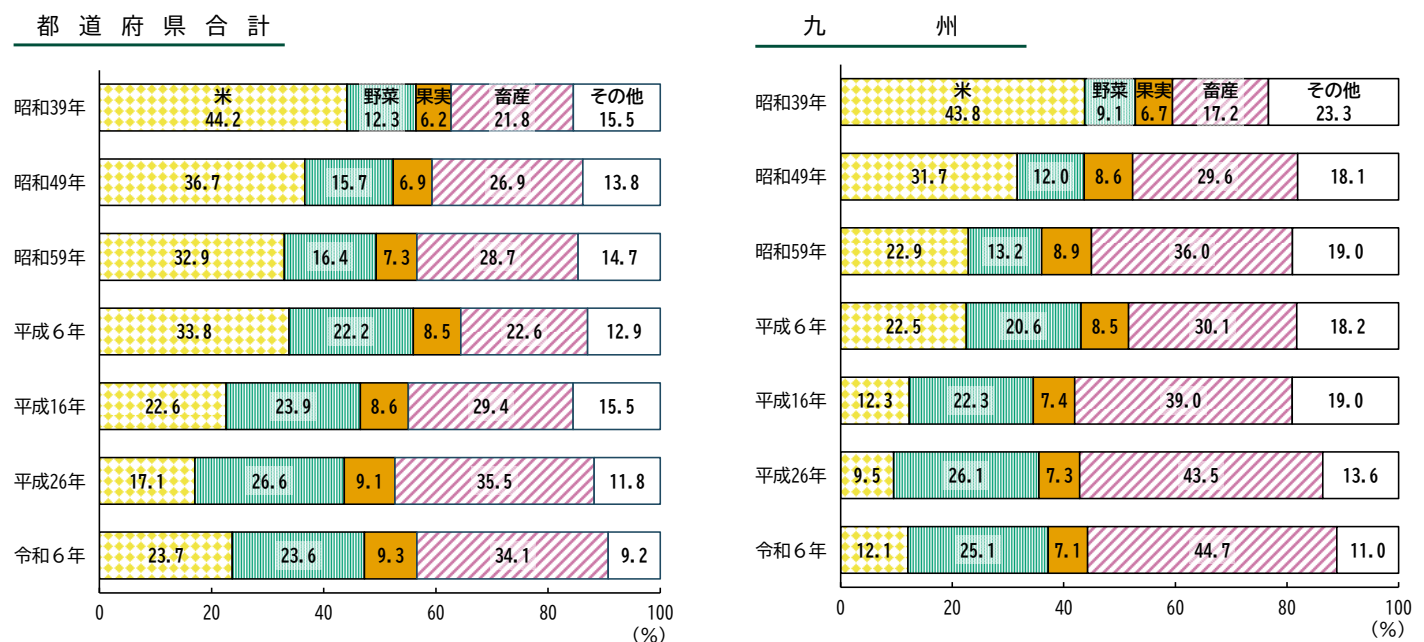
令和6年における九州の農業産出額は2兆445億円で、全国（都道府県合計）の農業産出額に占める割合は18.9%となっている。60年前（昭和39年）の13.3%と比較すると、九州は徐々に全国シェアを拡大しており、九州地域内の需要に応えるだけでなく、関東・関西地域など大消費地への供給を担う食料基地としての役割を強めている。

農業地域別に推移の傾向をみると、九州及び北海道の全国シェアが拡大しており、両地域に共通する特徴として、農業産出額に占める畜産の割合が高い点（九州：44.7%、北海道：56.7%）があげられる。



農業産出額の構成割合の推移(都道府県合計・九州)

農業産出額の構成割合の推移

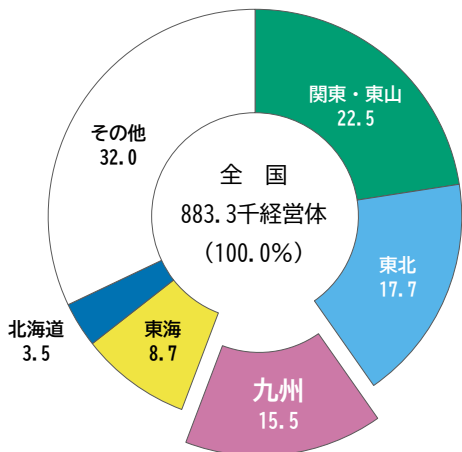


農業産出額の構成割合の推移をみると、全国（都道府県合計）及び九州ともに、米を中心とした農業から、次第に多様な品目へと展開が進んできたことがわかる。一方、令和6年においては、米価の上昇により米の産出額の割合が増加している。

九州では、全国に先駆けて農業の多様化が進んでおり、令和6年の農業産出額の構成割合をみると、肉用牛をはじめとする畜産が44.7%、野菜が25.1%を占めている。

全国における九州の農業経営体の状況

全国の農業経営体数に占める九州の割合

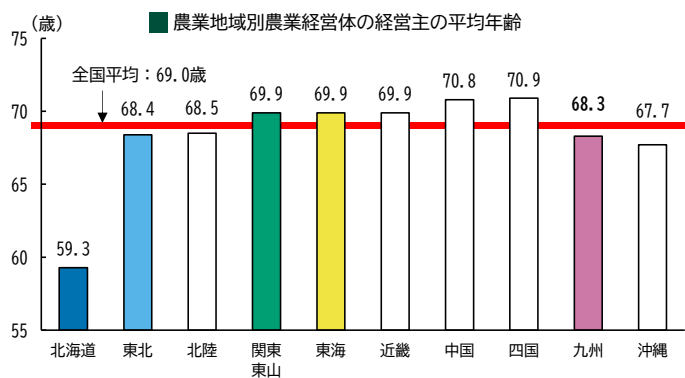


令和6年における全国の農業経営体数に占める九州の割合は15.5%となっている。

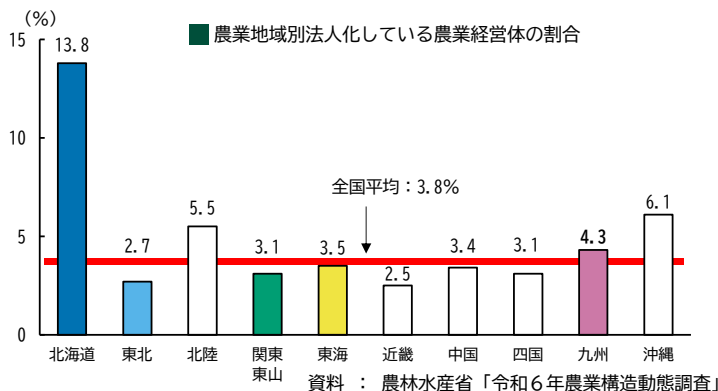
一方、農業産出額の全国シェアは18.9%であることから、九州は、他の農業地域に比べ、1経営体当たりの生産性が高い（経営規模が大きい）といえる。

また、令和6年における九州の農業経営体の状況をみると、経営主の平均年齢は68.3歳で、全国平均（69.0歳）より0.7歳若い。さらに、法人化している農業経営体の割合は4.3%で、全国平均（3.8%）を0.5%上回っている。多様な品目への展開に加え、このような農業経営体の特徴も、九州における生産性の高さに寄与していると考えられる。

農業経営体の経営主の平均年齢

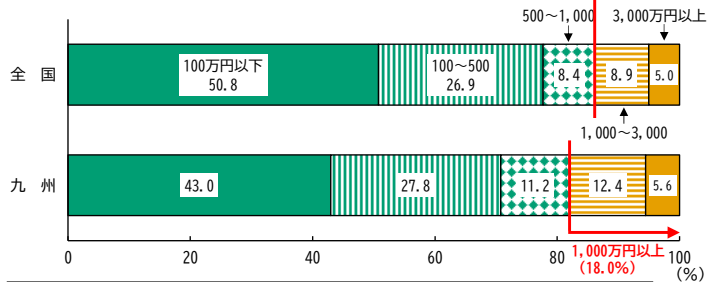


法人化している農業経営体の割合



九州の農業経営体と農業産出額の状況

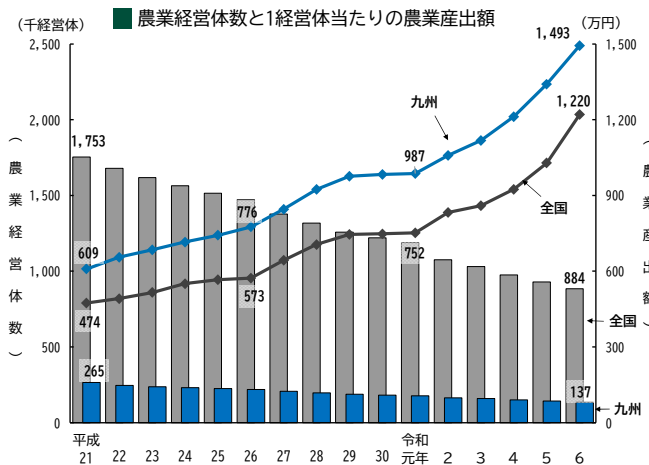
農産物販売金額規模別経営体数の構成割合



令和6年における九州の農産物販売金額規模別経営体数の構成割合をみると、1,000万円以上の経営体は18.0%で、全国平均（13.9%）を上回っている。

また、全国及び九州ともに農業経営体数は減少傾向で推移している一方、1経営体当たりの農業産出額は増加傾向にあり、九州は常に全国平均を上回って推移している。

農業経営体数と1経営体当たりの農業産出額の推移



農業産出額上位10都道府県

順位	都道府県名	農業産出額 (億円)				全国シェア (%)
		耕種	畜産	加工農産物	全シエア	
1 (1)	北海道	14,817	6,418	8,399	-	13.7
2 (2)	鹿児島	5,689	1,983	3,622	84	5.3
3 (3)	茨城	5,494	4,075	1,286	133	5.1
4 (4)	千葉	4,533	3,066	1,464	2	4.2
5 (7)	青森	4,119	3,036	1,083	0	3.8
6 (5)	熊本	4,116	2,752	1,347	18	3.8
7 (6)	宮崎	3,725	1,343	2,344	38	3.4
8 (8)	愛知	3,551	2,555	985	10	3.3
9 (10)	栃木	3,448	2,042	1,399	7	3.2
10 (9)	岩手	3,269	1,405	1,864	0	3.0

※ 順位のカッコ内は前年（令和5年）の順位。